

自己評価および第三者評価結果

南の家

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の希望に沿ったケアを心がけて取り組んでいる。地域行事への参加で地域の方との交流を図れるよう支援している。	法人の理念を具体化したKBC(喜楽苑ベシックケア)を基に、日々の業務に取り組むことで、職員は、利用者の自己決定とプライバシーの保護を大切にするケアを習得している。事業所独自の方針を活かすため、開かれた事業所として地域交流にも積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回開催される「ほんわか竹原野」に参加し地域の方や馴染みの方と交流されている。	開設当初から、職員が地域の歴史を学び、受け継がれた文化を大切にする取り組みが見られる。様々なお祭りやイベントへの参加、地区の一斉清掃に職員と利用者が一緒に参加するなど地域住民と触れ合い、事業所が主催する「ほんわか竹原野」でもグループホームの利用者と住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者の集いに職員が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される運営推進会議で運営状況の報告や意見交換を行っている。	コロナ禍も収束し対面での会議を2か月毎に開催している。家族会のOB、家族会会長、地域包括、市高齢福祉課職員、区長が参加し、事業所の状況を報告すると共に、参加者がそれぞれの意見を述べ、活発な情報交換の場になっている。	事業所には、貴重な利用者の自治会があるので、会議に現場職員と共に挨拶の数分でも参加する機会を持つては如何か。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして市職員、地域包括支援センターの職員に参加していただき、情報交換を行っている。	地域包括や市の福祉担当者とは、運営推進会議以外でも繋がりがあり、地域福祉の課題(地域住民の高齢化)や介護保険制度の確認等、地域全体の情報も共有している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関・窓を施錠しているが、その他の時間帯に拘束につながる施錠は行っていない。リーダー以上は毎月身体拘束廃止委員会に参加し、正しい理解に努めている。毎月定例会議でケアの確認をし、身体拘束をしないケアを実践している。定期的に学習会を開催し、意識付けをしている。	玄関の施錠は夜間以外は開いており、利用者は自由に出入りが可能である。玄関の開き戸を開けるとチャイムが鳴る仕組みで職員は出入りを把握している。身体拘束廃止委員会や研修で正しい知識を学び、会議でも日々の業務の振り返りを行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の虐待防止対策委員会に参加し、不適切ケアにつながらないケアのあり方を確認・実施している。毎月のセッション会議内で自身のケアを振り返る機会を持っている。	虐待防止の研修は年2回行い、毎月のセッション会議で見過ごされてしまいがちな不適切なケアを確認している。職員は、利用者への対応を自己チェックし、日々、利用者の意思とプライバシーを尊重した適切なケアを心がけている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の必要な入居者はいないため、活用には至っていない。今後、定期的に学習の機会を設けていきたい。	成年後見制度を利用している利用者がいないため、職員も制度について知る機会が少ない。管理者は、地域全体が高齢化し、独居、高齢夫婦が増えている実態を把握しており、今後この制度が必要になってくることも予測し、学ぶ機会を設けたいとのこと。	福祉政策を発信できる貴重な事業所として、地域包括による職員研修や家族、住民にも制度を簡単に知って貰えるような取り組みを「おもしろセミナー」などで試みては如何でしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時、見学時、入居時に繰り返し、口頭・書面で説明をし、理解をしていただいている。	契約に関して、家族、本人が不安に思う事柄は、見学時や入居前に十分に説明している。特に、退去に関しては、納得が得られるよう丁寧な説明を心がけている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ユニット毎に開催する自治会や日常会話の中から要望を聞き取るよう努めている。家族へは、家族会での意見徴取の他は、個別の連絡、面会時の聞き取りで意見を聞き、反映に努めている。	家族は、事業所の様々なイベントに参加し家族間や職員との交流は密に行えている。開設当初から家族会は、運営推進会議でも活発に発言し、利用者の生活がより豊かになるよう協力し合える信頼関係が構築され、大掃除やベランダの改修などのヘルプもしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議、ユニット会議内で意見を収集し、日々の業務に反映している。	職員は、会議などで利用者に関する課題を共有し、同じ目標に向かって協力し合える良好な関係作りを心がけている。リーダーは、職員からの意見を収集、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度で各自目標を掲げて実施している。年に2回は必ず職員個々に面談を行い、評価している。また、随時面談を行っている。人手不足であると感じる。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の課題に合わせて内部・外部研修への参加を促し、伝達講習の機会を設けたり学習の機会を設けるように努めている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度、南但馬地区のグループホーム連絡会が開催されており、他施設の情報を得ると共に、研修会等の計画を立てている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントを行い、情報の収集を行っている。また、その情報を職員間で共有し、統一した支援を実施することで、良好な関係作りにつなげている。入居者が安心して生活が出来るよう、傾聴を心掛けている。情報はケース入力し、職員間で情報共有をしている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前アセスメント、入居時の確認、聞き取りにより、入居者、家族の要望を聞き、丁寧に答えるように心がけている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取り、担当ケアマネジャーからの聞き取りにより支援の見極めをしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で役割を持って頂き、入居者と職員がともに作業をするよう心掛けている。毎月の自治会の中で本人の生活の希望を聞き取っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族参加行事が開催出来ていないが、面会時には丁寧に近況報告を行うようにしている。LINEの活用もしている。(オンラインでの面会、近況報告、写真の送付)受診対応をお願いする事もある。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪等は馴染みのお店に行って頂くようにしている。	利用者にとって地域のお祭りは馴染みの場所であり、参加できるように支援している。そのお祭りで昔からの知り合いに出会い、喜ばれることもある。入居前から通っていた散髪屋に職員同行で外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席など考慮し、入居者同士が馴染みの関係を築けるよう配慮しているが、難聴の方が多く、円滑な交流が出来ない場合もある。入居者同士の関わりが持てる様、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちを傾聴し、思いを尊重した対応が出来るよう努めている。本人・家族から聞き取った意向が反映されたケアプランを作成している。	利用者の意見を聞く入居者自治会で要望や意見を聞いている。自宅に帰りたいとの利用者の要望を聞き、法人内別事業所に入所している妻と、故郷訪問をした事例がある。言葉が発しにくい利用者は、入所時の聞き取りや表情、仕草で判断している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族等から様々な情報を聞き取り、出来る限りこれまでの生活が継続できる様にしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、身体の状態を把握している。注意深く観察し、日常の小さな変化を見逃さないように努めている。日々の出来事を記録に残し、全職員が把握できる様にしている。定期的に体力測定を実施している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態に応じて個別のカンファレンスを開催している。ケアプラン更新時には家族から意見を聞き、職員と情報共有をしている。	ユニット毎に計画作成担当者がいる。モニタリングや介護計画書を作成している。居室担当者がモニタリングを確認し、家族からの意見や要望を聞き取り参考にし、サービス担当者会議を経て介護計画書を作成している。OT(作業療法士)が簡易歩容解析の機能を計画作成に取り入れ活用している。事業所は、AIによるケアプラン作成を検討中である。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの発生時は都度、職員間で話し合い、出来る限り実現できるようにしている。また、施設や法人内の専門職に協力を求めて検討を行うこともある。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降、地域との交流は難しいが、馴染みの散髪屋を利用する等、出来る限り住み慣れた地域とかけ離れる事のないよう配慮している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅時のかかりつけ医を継続している。体調に変化がある時は、まずかかりつけ医に相談をし、早期受診を心がけている。必要時にはオンライン医療診断で24時間適宜相談し対応している。	利用者全員が、入所前の主治医をかかりつけ医を継続して毎月の訪問診療を受けている。法人の看護師が24時間オンコール対応しており、必要時はかかりつけ医や、協力医療機関につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化や気づいたことは記録に残すとともに、対応方法等については必要に応じてかかりつけ医に相談をしている。日々の暮らしの中で情報共有する事で、早期受診・治療開始につなげている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室の担当者と小まめに連絡を取りあい、早期退院が出来るよう努めている。	入院時はかかりつけ医の紹介により、指示された協力医療機関に入院している。介護サマリーにより、医療機関に心身の状況や生活状態を伝え、入院中は医療連携室との連絡を密にし、退院時は看護サマリーをもらい支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、必ず入居時に説明している。看取りとなられた方の対応方法については家族とともにかかりつけ医からの説明を受けた。日々のケアを細かく記録に残し、情報共有を図った。終末期の支援方法等については、今後学習が必要だと感じる。	契約時に、重度化や終末期の受け入れは伝えられているが、法人の特養等の事業所への移行方法もある事を伝えている。家族の意向で看取りを受け入れ、かかりつけ医の指示を中心に、全職員で支援した経験がある。事業所は、今後看取りに関する研修の必要性を感じている。	今後に備え、看取りに関する研修の実施をして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、転倒事故などのマニュアルを作成しており、対応は統一されている。看護師、上司への連絡を密に行うことにより、早めの受診につながっている。救急対応は定期的を確認する必要がある。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回防災訓練を実施している。	年2回の法人全体の避難訓練は、消防署の立ち合いや、地域住民の参加で実施している。2か月毎に事業所独自で、夜間想定や消火器使用方法、水害時の避難方法、非常持ち出し品の整備や点検をし、職員の共通認識としている。食料備蓄品は食してローリングストックしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念を念頭に置き、言葉遣いには十分注意をしている。依頼形の声掛け、尊敬語、謙譲語の活用をするようにしている。毎月のセクション会議内で自身のケアを振り返る機会を設けている。	法人の理念に則り、KBC(喜楽苑ベーシックケア)内の、食事・入浴・排泄等の身体介護や、医師の診察を事務所でする等、プライバシーに配慮している。利用者には、通常名字にさんを付け呼んでいるが、本人・家族の要望で昔からの呼び方の利用者がある。接遇、不適切ケア等の研修をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	依頼形の声掛けで、自己決定をして頂けるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々の意向の確認をしその方に合ったペースで生活して頂けるよう対応しているが、時に職員のペースに合わせて頂いてしまっている時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して貰いその人らしい衣類を揃え、入浴時にはご自分で服を選んで頂いたりしている。身だしなみは毎日整える様になっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施したり、アレルギーや好き嫌いの有無を把握している。日々の調理は職員が中心で行う事が多いが、体調や気分を見ながら声掛けをし、洗い物や片付けを入居者と一緒に行うようにしている。食事作りの際は、出来る限り入居者の皆さんに手伝って頂くようにしているが、その機会は少ないと感じる。	事業所でご飯とみそ汁を炊き、法人施設の厨房から副菜が届きユニットで盛り付け提供している。配膳時は利用者に食事メニューを説明し、畑で収穫した野菜を使用し季節が感じられるよう配慮している。利用者は、食後のあとかたづけ等出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立により、栄養管理は出来ている。食事量、水分量は一定の目安を設け、こまめに声をかける等摂取を促すようにしている。必要に応じて補助食品を準備したり、時間をずらしたり、量の調整をする事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後に行っている。朝食後はできていない。その方に応じた声掛け・介助を行っている。定期的な歯科検診などが出来ていないので評価が難しい。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行う事でトイレで排泄できるように働きかけている。	全利用者は、何らかの支援が必要であり、個別の排泄リズムを把握し居室トイレに誘導している。入居前は、自宅で排泄コントロールができなかった利用者が、トイレ誘導の充実により快適に過ごせるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動等で自然排便を促しているが、主治医と相談して下剤等を使用する事が多い。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯はある程度決めてしまっている。拒否される事もある為、その際は日程や時間をずらしてその方の良いタイミングで入浴して頂けるよう配慮している。	入浴は午前と午後に分け週に2回を確保している。異性介助に拒否的な利用者があるが、自力で入浴可能な為、職員は脱衣室から見守っている。檜風呂の老朽化により、改装の予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動で夜間良眠できる様努めている。本人の体調を見て昼寝の時間を設けるようにしている。寝具など家族の協力を得ながら準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しており、いつでも確認出来るようになっている。また、抗凝固剤を使用されている方はファイルに目印を貼り、頭部打撲時に早期に対応できるようにしている。必要に応じて主治医に相談し、薬の量を減らす、中止する等の対応をする場合もある。薬セットミスや配薬ミスのないよう十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った余暇活動の提供をするようにしているが、屋内での活動が多く十分ではない。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降、外出はあまり出来ていない。	敷地内の散策は自由にしており、法人の施設玄関に、移動販売車来訪時には職員が付き添って買い物を楽しんでいる。地域の各家庭に出向き、ひな祭り見学をしたり、バラ庭園のオープンガーデンの見学に出かけている。夫婦で自宅に故郷訪問した利用者もあり、家族との外出は自由に行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理をされている方はいない。お菓子等の購入希望があれば、職員が購入するようにしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙等、希望があればその都度対応するようにしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や小スペースに季節の花を生けたりして季節感を取り入れるようにしている。室温の調整をし、心地良く過ごして頂けるようにしている。	玄関に利用者が生けた生花を飾り、リビングは大きな窓により明るく、田畑や山が一望でき自然から季節が感じ取れる良い環境である。廊下には小休止できる椅子があり、旅館を思わせる落ち着いた空間である。リビングには湿温度計を設置し、快適な生活環境を整えている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外でも小スペースなど環境整備し1人1人に配慮した居場所作りを行っている。食席に配慮し、入居者が過ごしやすいようサポートしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具を置かせて頂くようにし、自宅に近い環境作りをしている。居室担当が主体となり、居室の環境整備を行っている。	事業所は、トイレやエアコン、洗面台や電灯を準備しており、利用者は、自宅で使用していたタンスやテレビ、鏡台やお琴、遺影や家族写真等々を持ち込み、家庭の雰囲気を出している。時々居室の鍵を掛ける利用者がある。担当職員が、居室の掃除や設えをしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレには手すりを設置し、安全に利用できるようにしている。自立されている方はもちろん、介助の必要な方も、なるべくご自身で生活がしやすいように支援している。身体状況の変化があれば、必要に応じて居室のレイアウトを変更して安全に動けるよう環境調整を行っている。		

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874900315		
法人名	社会福祉法人 きらくえん		
事業所名	グループホーム竹原野		
所在地	兵庫県朝来市生野町竹原野222		
自己評価作成日	2025年8月27日	評価結果市町村受理日	令和7年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和7年10月14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営方針のもと、民主的運営と人権を守る認知症ケアの実践に取り組んでいる。  
 ・毎月、入居者自治会を開催し、入居者のニーズに合わせた暮らしの実践をしている。  
 ・積極的に地域の行事に参加したり、馴染みの散髪屋へ行くことなどで地域社会との繋がりが継続できるよう取り組んでいる。  
 ・地域の住民の方に気軽に来苑にいただける様に運営推進会議で情報を発信している。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな田園風景に囲まれ、和風建築の暖かい佇まいの事業所は、地域の高齢者が集える貴重な複合施設として長い歴史を刻んでいる。管理者をはじめ各リーダーが法人の普遍的な理念「ノーマライゼーション」と事業所独自の運営方針を活かした取り組みを、全職員と共に日々の業務や地域交流に力を発揮している姿勢が伺える。利用者一人ひとりが歩まれてきた歴史を尊重し、その人らしく過ごせるよう、家族との繋がり、地域との触れ合いを大切に支援している。開かれた事業所として、月1回、地域住民との交流の場になっている喜楽苑のイベント「ほんわか竹原野」で利用者自身が主体の喫茶店の企画は、利用者のやりがいと楽しみに繋がっている。これからも地域住民にとって頼れる福祉の拠点、拠り所として活躍されることを期待しています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式2)

事業所名:グループホーム竹原野

## 目標達成計画

作成日: 令和7年11月6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	新しい職員や外国人雇用も始まり、看取りを経験した職員に偏りがある。今後に備えて、看取りに関する研修の必要性がある。	年間研修計画に看取りを3回行う。	年度当初にリーダーが研修を実施する。講師を中期はサブリーダー、下記は現場職員と変え学びを深めてもらう。	12か月
2	7	権利擁護を活用している方がいないため、触れる機会がなく学ぶ機会がない。地域全体の背景を踏まえて今後に備えた学習ができていない。	一般職員は制度概要を、相談職は相談者に、活用方法を説明できるようになる。	年間の学習計画に権利擁護に関する項目を追加。講師は包括支援センター職員に依頼する。	12か月
3					
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した (11/12実施予定)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った (11/12実施予定)
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )